

平成20年度 第4回隠岐島前高等学校の魅力化と永遠の発展の会 総会議事メモ

日時 平成21年3月30日 10:15～12:00

場所 黒木公民館

出席者

海士町長山内道雄様、西ノ島町長扇谷豪様、知夫村長矢田辰夫様、元隠岐島前高等学校長山岡郁夫様、西ノ島町議会議員仲吉正様、知夫村議会議員長徳田博史様、知夫村議会副議長井尻義教様、海士町議会議員長亀谷潔様、海士町議会副議長柏原廣行様、海士町教育長佃稔様、西ノ島中学校長大西和彦様、海士中学校長宇野和福様、西ノ島町総務課長升谷健様、隠岐島前高等学校 PTA 会長松前一孝様
事務局浜板健一、事務局岩本悠

【会議次第】

1. 山内会長挨拶

- ・2月17日に県へ提言に行った。前向きな回答であった。今後は国へも提言していく。

2. 議事

①第3回(12月9日)総会以降の状況報告(事務局)

②来年度以降の計画予定について(事務局)

○事務局から第3回(12月9日)総会以降の魅力化の進捗状況や平成21年度以降の計画予定について説明。

- ・大学進学も可能な高校作りに向けて、寮を使った取り組みを充実させてほしい。
- ・生徒が自宅から港まで車で送り迎えさせているなど親が甘やかしている。
- ・集団生活や協調性、自立心を養うなど教育という観点で寮を活用していつてはどうか。
- ・寮での生活指導が良いようだが、全寮制という方向を検討したらよい。
→授業料滞納などがあり、金銭的負担が生じる取り組みは難しい。
→高校寮務部と相談しながら、可能な範囲で試験的に取り組んでみたい。
- ・寮の取り組みなどをするために人員が必要という陳情は言えないものか。

③推進体制について(事務局)

○21年度以降、魅力化を推進していくための体制について事前協議(3月26日開催)の素案を提示し、説明。

- ・推進本部をつくるのに反対ではないが、会が多くなってしまうのが心配。事務局がどんどん動いていけばよい。必要があれば、関係者のところへ出向いて連絡調整すればよい。
- ・事務局が取り組んで、魅力化の会に情報として報告すればよいのでは。
- ・この会そのものの手順の見直しが必要。事前に正副会長と事前協議し、本会に提案すればよい。
- ・新しい組織ができると、魅力化の進行が遅れる懸念がある。
- ・新しい体制図は良いと思うが、やり方については検討が必要。
- ・事務局の位置づけを再検討したらよい。

→6月までに新体制について検討し、来年度第1回目の後援会で報告する。

④カリキュラム構想について(事務局)

- ・小中学校でもふるさと教育を推進している。その流れを高校でも生かしてほしい。
- ・「ふるさとへの想い」や「志」を育て欲しい。
- ・理想をいえば、分析力、企画力があり、経営がわかる人が欲しい。
- ・高校段階では目標にあるように、自立心・独立心を持った生徒を育成することが大切。
- ・候補科目一覧表を見ただけでは、それぞれの内容のイメージがわからない。
- ・しっかりとした目標や夢を持てるようにして欲しい
- ・島内の生徒は、一度は島外に出たいと思う。島外に出た後、どうするのかを考えさせる教育が必要。
- ・島に帰ってきたときにここの地域資源を使って食えるようになってほしい。起業する気概を持ってくれるとよい。
- ・このカリキュラムで専門家を目指すのか、そうでなければどこまで指導するのか明確にすべきである。
- ・三町村の中で、カリキュラムの魅力をPRし、生徒をひきつける。島外はその次と考える。
- ・島前高校で、どこに進んでも大丈夫なように人間性や基本的な個々の能力を高めるような指導をしていけばよい。

⑤その他

(事務局から)

- ・この会の略称を「後援会」と呼んでいたが、家督会と混同されることもあり、略称を変えてほしい。
→島前高校魅力化の会とする。

3. 矢田副会長挨拶

- ・卒業式に出席したが、心から応援したくなるような立派な式典であった。
- ・知夫村でも、地域創造コース設置の背景と同じ状況がある。
- ・島前に必要な人材を自前で調達できるようになることが、究極の目標だと思う。
- ・今年度、知夫出身者で島根大学医学部に合格した生徒がいた。島前高校から医療や福祉などの進路に進み、帰ってきてくれるとよい。

